

## 岩手県におけるHTLV-1の母子感染

伊藤 忠一、岩手県成人T細胞専門委員会

要約：岩手県におけるHTLV-1の浸淫地区より4機関病院を選び、来院した妊婦1062名について抗HTLV-1抗体検査を実施した結果、31名(1.9%)の陽性者が検出された。

1988年および1989年度における抗HTLV-1抗体陽性妊婦より娩出した47名について経時的に抗体を追跡した。またこれらの同胞中たまたま機会のあった31名について抗体検査を実施し、人工栄養児と母乳栄養児との間に陽性率の明らかな差を認めた。

また抗体検出法についても若干の検討を加えた。

見出し語：HTLV-1、妊婦、母子感染

研究方法：岩手県におけるHTLV-1浸淫地区である太平洋沿岸より4つの機関病院をえらび、来院した妊婦1602名について抗HTLV-1抗体を検出した。次いでそれらの妊婦より娩出した児29名、昨年度より継続追跡中児の18名および彼等の同胞でたまたま検査の可能であった31名合計78名について128回の抗体検査を実施した。

抗体検査はPA法(RP10501)とEIA法でスクリーニングし、両法とも陽性の場合を陽性と診断した。両法不一致の場合についてWestern blot(WB)法にて確認した。いずれの場合も主治医の説明およびアンケートによって納得合意をえた上で検査を実施した。その後の哺乳指導を含めトラブルの起こった症例は経験さ

れなかった。児の経過追跡は原則的に本研究予防対策班のプロトコールに従った。

結果および考察：

(1) 妊婦の抗HTLV-1抗体陽性率：選択された4医療施設における抗HTLV-1抗体検査の結果を表1に示す。全体で31症例(1.9%)の陽性妊婦が確認された。この陽性率は岩手県献血者の陽性率2.3%より低値であるが、妊婦は若年齢層に偏っているためと考えられる。因みに対象妊婦の91%は35歳以下であった。また各医療機関における妊婦の抗体陽性率はA施設3.9%(A地区献血者4.8%)、B施設3.0%(同3.4%)、C施設1.3%(同2.6%)、D施設1.1%(同2.4%)でそれぞれの地区における献血者の抗体陽性率と平行していた。

(2) 抗HTLV-1抗体より娩出した児の追跡調査：1988年および1989年の2年間の児47名について追跡調査し、97回にわたって検査したときの月齢別抗体陽性率を表2に示した。追跡症例の多くは未だ1年未満の観察期間であり、母体由来の抗体の存在のため高い陽性率がえられたが、7ヶ月以上経過した症例における15回の検査では抗体陽性反応を示したのは1回のみであった。追跡中の児の同胞中たまたま検査の機会がえられた31名の検体を母乳栄養児(混合栄養を含む)と人工栄養児と分けて陽性率を検討した。結果は表2に示した。前者では15例中6例(40%)と高率に抗体陽性例が検出されたのに対し、後者においては16例中2例(12.5%)のみが陽性であった。経過観察中のもも含め人工栄養児においては母乳栄養児に比較し、HTLV-1の母子感染成立は低いと考えられる。

(3) 検出法に対する検討：今回検討した材料中、EIA法とPA法が不一致であった検体が14例(PA法陽性、EIA法陰性9例、PA法陰性、EIA法陽性5例)

に認められた。これらの検体をWB法にて解析したところ1例を除きすべて判定保留あるいは陰性と判定された。これらの大部分でIgM性抗P19抗体が観察された。ときに弱陽性のIgM性抗P24抗体あるいは/および弱陽性のIgG性抗P19抗体の観察される例もあった。

PA法について従来法(RP10501)と改良法(RO4)との比較を行なった。不一致が6例(改良法陽性、従来法陰性4例、改良法陰性、従来法陽性2例)にみられ陽性一致率91.5%陰性不一致率は99.7%であった。これらの不一致例についてWB法を用いて確認したところ6例とも陰性と判定された。不一致例でみられる抗体価はいずれの方法においても陽性あるいは弱陽性反応によって16倍と判定された。

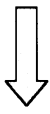
従来法で16倍と判定されたものが65検体中3例存在した。うち2例は最終的に陰性と判定された。改良法で16倍と判定された症例も2例あったが2例ともWB法で陰性と確認され、両法とも16倍陽性という基準に問題があると考えられた。

表1 妊婦における抗HTLV-1抗体検査

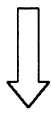
医療機関	A	B	C	D	計
対象者数	228	335	388	651	1602
PA法 検査数	228	335	388	651	1602
陽性数	12	13	7	14	46
EIA法 検査数	228	335	388	651	1602
陽性数	9	10	5	11	35
WB法 検査数	7	3	2	13	25
陽性数	1	0	0	0	1
陽性者数	9	10	5	7	31
陽性率(%)	3.9	3.0	1.3	1.1	1.9

表2 月齢別抗HTLV-1抗体陽性率

月齢	人工授乳にて経過観察中の児 (N=47)		経過観察中の児の両施			
	検査件数	陽性数(%)	母乳(混合も含む)		人工栄養	
			検査件数	陽性数(%)	検査件数	陽性数(%)
調査直	25	25 (100.0)				
1M	25	25 (100.0)				
2-3M	16	11 (68.7)	2	1 (50.0)	4	1 (20.0)
4-6M	16	5 (31.3)				
7-9M	12	1 (8.3)				
10-12M	2	0 (0)				
1Y	1	0 (0)	3	1 (33.3)	5	0 (0)
2Y	0	0	4	2 (50.0)	4	1 (25.0)
3Y	0	0	4	1 (25.0)	2	0 (0)
4Y以上	0	0	2	2 (100.0)	1	0 (0)
合計	97	67 (69.1)	15	6 (40.0)	16	2 (12.5)



**検索用テキスト** OCR(光学的文字認識)ソフト使用  
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



要約:岩手県における HTLV-1 の浸淫地区より 4 機関病院を選び、来院した妊婦 1062 名について抗 HTLV-1 抗体検査を実施した結果、31 名(1.9%)の陽性者が検出された。

1988 年および 1989 年度における抗 HTLV-1 抗体陽性妊婦より娩出した 47 名について経時的に抗体を追跡した。またこれらの同胞中たまたま機会のあった 31 名について抗体検査を実施し、人工栄養児と母乳栄養児との間に陽性率の明らかな差を認めた。

また抗体検出法についても若干の検討を加えた。